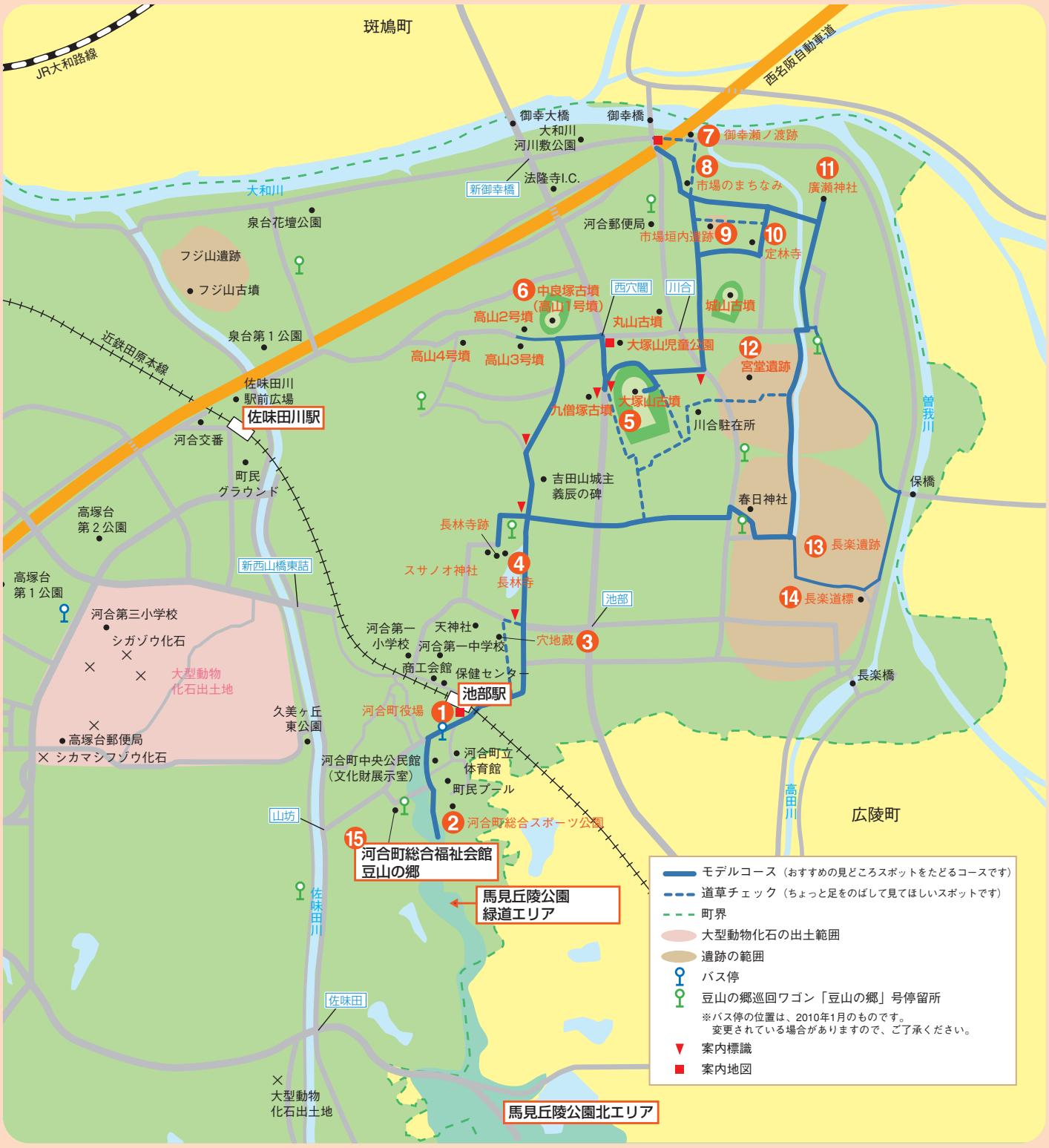
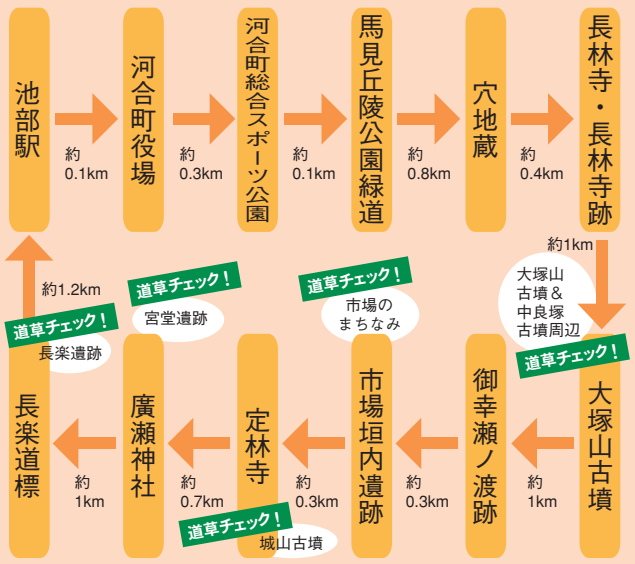
日本の原風景をたどる

歴史の道コース

古くから物資を運ぶ水路として
利用されてきた大和川沿いの町並みは、
多くの人々が行き交った
懐かしい景色に出会える場所。
自然と調和した木造の神社仏閣や、
静かにたたずむ古墳群など、
味わい深い歴史スポットが満載です。



モデルコース



かわいちょうやくば
河合町役場 1 map

池部駅の改札を出て右に向うと見えてくる門はもと豆山荘と呼ばれた建物で、大正12年頃に建てられた歴史あるものです。昭和24年、この場所に河合町役場が移されました。

かわいちょうそうごうすぽーつこうえん
河合町総合スポーツ公園 2 map

まるごと１日遊べる「河合町総合スポーツ公園」。プール、テニスコート、ゲートボール場のご利用に関しては、下記までお問い合わせください。
お問い合わせ：0745-56-4600
休園日：毎週月曜日、年末年始

あなじぞう
穴地蔵 3 map

安産に霊験があるとされる地蔵尊。江戸時代の作と思われる地蔵など小石仏6体が石屋形の中に安置されています。

おおつかやまこふんぐん
大塚山古墳群 5 map

1 大塚山古墳 おおつかやまこふん
５世紀後半築造の三段築成の前方後円墳。墳丘全長は197m、同時期では奈良盆地内で最大級の古墳です。遺物は、円筒埴輪・朝顔形埴輪・家形埴輪の円柱部分に小型の盾を付けたもの・盾形埴輪・蓋形埴輪・須恵器模倣土師器など。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

2 城山古墳 しろやまこふん
大塚山古墳群で最後に造られた古墳。5世紀末から6世紀初頭の築造と考えられ、墳丘全長は109m、大塚山古墳と同様、同時期では奈良盆地内で最大級の古墳です。中世に砦として利用され、墳丘は変形していますが、三段築成と推測されています。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

3 丸山古墳 まるやまこふん
二段築成で直径48mの大型円墳。５世紀後半の築造。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

4 九僧塚古墳 くそうづかこふん
二段築成で一辺約35mの方墳。大塚山古墳とほぼ同時期に築造され、大塚山古墳副葬品埋納施設と考えられています。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

なからづかこふんしゅうへん
中良塚古墳周辺 6 map

5 中良塚古墳 なからづかこふん
（高山1号墳）
二段築成で墳丘全長88mの前方後円墳。５世紀後半の築造。「中良塚」は「穴闇塚」の転訛と考えられています。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

「高山2号墳出土人物埴輪（腕）」

6 高山２号墳
発掘調査によりもとの規模は直径約35mと推定される円墳です。周濠部から人物埴輪や、動物埴輪の一部が出土しています。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

7 高山３号墳
発掘調査によりもとの規模は直径30mと推定される円墳です。周濠部から滑石製勾玉が出土しています。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

「高山3号墳出土勾玉」

8 高山４号墳
現在は東西18m、南北12mほどの規模ですが、もとは直径20m以上の円墳であったと見られます。（昭和31年12月28日、国指定史跡）

ちょうりんじ
長林寺 4 map

長倉寺瓦銘丸瓦

金堂基壇

伽藍想定スケッチ

創建以来、衰退と復興を繰り返し、文久２年（1862）に現在の形になった寺院。聖徳太子の建立と伝えられていますが、伽藍が整ったのは、飛鳥時代後期以降とされます。金堂が西に、塔が東にある斑鳩の法起寺式伽藍配置であったことを示す金堂基壇と礎石、講堂礎石、現長林寺の中庭に塔心礎が残っています。「長倉寺瓦」銘の丸瓦も出土し、本来は「長倉寺」という名称であったとされ、「穴闇」という地名は「長倉」の転訛と考えられています。

ごごがせのわたしあと
御幸瀬ノ渡跡 7 map

かつて大和川水運が盛んだった頃、現在の御幸橋付近に渡しがありました。この船着場は「川合浜」とも呼ばれ、舟運の中継地として栄えました。御幸瀬の名は飛鳥時代に天武天皇が廣瀬神社と龍田神社へ行幸したこと、または、奈良時代に元明天皇が廣瀬神社へ行幸したことによると伝えられています。

万葉集に詠まれた歌

廣瀬川　袖つくばかり
浅きをや　心深めて
わが思えるらむ
（万葉集巻７　1381）

いちばのまちなみ
市場のまちなみ 8 map

大阪湾と奈良盆地を結ぶ重要な交通路であった大和川沿いには、御幸ケ瀬と呼ばれる船着き場（現在の御幸橋付近）がありました。多くの物資や人が行き交う御幸ヶ瀬の南側では、市が立ち並び、多いに賑わったことから「市場」と呼ばれるようになりました。現在でも残る古い街道沿いには水運で栄えた当時の面影が残っています。

いちばがいといせき
市場垣内遺跡 9 map

城山古墳の北側に位置する一辺約40mの規模で周囲に濠を巡らせた中世環濠館跡。戦国時代の吉田山城主義辰の館であったとされ、発掘調査で中国や韓国の陶磁器の破片が多く出土し、はるか西方の国々と結びつく水上交通の要衝であったことが分かります。市場垣内遺跡は日常生活の場として、近接する城山古墳は戦時の際の砦であったと考えられています。

じょうりんじ
定林寺 10 map

廣瀬神社の西側、城山古墳の北側の小寺院。廣瀬神社所蔵の『和州廣瀬郡廣瀬大明神之圖』では、現在の宮堂遺跡の位置に聖徳太子建立の寺院として七堂伽藍が描かれています。

ひろせじんじゃ
廣瀬神社 11 map

創建年代は不明ですが、『日本書紀』の天武天皇4年（675）の条に「大忌神を廣瀬の河曲に祀しむ」とあり、龍田の風神と共に国家的な神事が営まれていました。『河相縁起』では崇神天皇の時代に創建されたと伝えられ、７世紀以前にも何らかの信仰があったようです。祭神は若宇加能売命で、水の神・五穀豊穣の神として広く信仰されています。現在の本殿は、江戸時代の中頃の正徳元年（1711）の造営で、一間社春日造の様式をよく伝えるものとして、昭和63年3月22日、奈良県指定文化財（建造物）に指定されています。毎年２月11日に行われる砂かけ祭りは、雨に見立てた砂をかけあい五穀豊穣を祈願する大和の奇祭のひとつとして有名な祭りで、平成21年12月11日に河合町無形民俗文化財に指定されました。

みやどういせき
宮堂遺跡 12 map

縄文時代から集落が形成されていた宮堂遺跡からは、飛鳥時代以降の須恵器や、古瓦の破片が出土し、和州廣瀬郡廣瀬大明神之圖が示す大規模な寺院が存在した可能性があります。

ちょうらくいせき
長楽遺跡 13 map

平安時代に長楽周辺にあったとされる荘園「小東庄」に関係する遺跡です。春日神社の南側で、平安時代の革帯の飾り「石帯丸鞆」が出土しており、この辺りの荘園を管理する荘館があったと見られています。また、春日神社の東側に長楽寺があったとされています。

ちょうらくどうひょう
長楽道標 14 map

もとは曽我川左岸（西岸）の堤防上にあった道標で、北・東・南の面に高野・吉野・奈良等の方向を示しています。西面には嘉永４年（1851）の建立年と発願主を記している河合町内で最大の道標です。